

D-15-15 パソコン会議システムによる情報教育の試み

Attempt of Computer Science Education by using PC Conference System

○杉本 雅彦
Masahiko SUGIMOTO
明星大学
MEISEI Univ.

佐久本 功達
Kohtatsu SAKUMOTO
明星大学
MEISEI Univ.

櫻井 広幸
Hiroyuki SAKURAI
明星大学
MEISEI Univ.

石原 学
Manabu ISHIHARA
職業能力開発大学校
POLYTECHNIC Univ.

杉本 和隆
Kazutaka SUGIMOTO
市川市立大洲中学校
OHSU Junior H.S

志方 泰
Yutaka SHIKATA
明星大学
MEISEI Univ.

1. はじめに

1997年5月から、在宅の中学生に対しISDN回線で接続したパソコン会議システムを利用して、遠隔地間で情報教育を行っている。現在までの結果、パソコン会議システムを利用した教育でも、生徒にコンピュータに対する興味を持たせることができるとわかった。これまでに得られた成果を報告し、パソコン会議システムを用いた遠隔教育に対して、今後どのような応用が考えられるかを報告する。

2. パソコン会議システムの概要

パソコン会議システム(Intel™ ProShare Conferencing System 2.0a)を利用して、Fig.1に示したように2台のパソコン(OSはWindows 95)をISDN回線(INS64)で接続した。

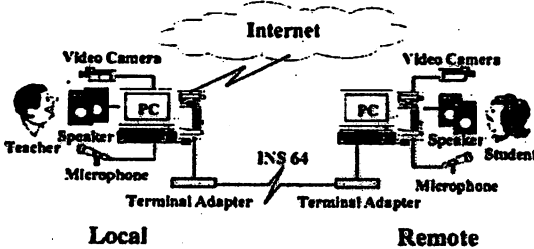


Fig.1 System composition.

今回行われた一連の遠隔教育は、このシステムに付属しているソフト共有機能を用いて、LocalあるいはRemoteで起動したソフトを共有することにより行われた。

3. 遠隔教育の内容と経過

教育センターに来所できる在宅の生徒(約10名)に対して、インターネットのホームページ作成を目標として遠隔教育を行った。

1学期(5月～夏休み前)は、パソコン会議システムの操作に慣れること、インターネットに興味を持ってもらうことに重点を置いた。

2学期(夏休み明け～12月)は、デジタルカメラで撮影した画像データの加工や簡単な絵の作成を行い、11月中旬からは年賀状の作成を行った。

4. まとめ

現在、生徒は文書と画像データの両方を取り扱うことができ、3学期に予定されているホームページ作成に対する基礎はほぼ確立されていると思われる。

パソコン会議システムを利用しても、生徒にコンピュータに対する興味を持たせることが可能であることがわかった。また、このシステムは病気で学校へ行くことのできない院内学級の生徒などに対しても有効利用できると思われる。

参考文献

- [1] 杉本雅彦, 佐久本功達, 榎本立雄, 大橋有弘, 櫻井広幸, 石原学: “遠隔教育におけるパソコン会議システムの実験と評価”, 科教研報, Vol.11(No.2), pp.5-10 (1996)
- [2] 杉本雅彦, 佐久本功達, 櫻井広幸, 石原学, 杉本和隆: “在宅の生徒に対するパソコン会議システム活用の試み”, 日本科学教育学会年会論文集 21, pp.153-154 (1997)
- [3] 櫻井広幸, 佐久本功達, 杉本雅彦: “パソコン会議システムを用いた学生間コミュニケーションの評価”, 教育システム情報学会, 教育関連学協会連合第5回全国大会講演論文集(第一分冊), pp.299-302 (1997)